Osaka University Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 看護計画開示を試みて ： 看護におけるインフォームドコンセントを考える |
| Author(s) | 水江, 尚代; 清野, 恭子; 高山, 美保 他 |
| Citation | 大阪大学看護学雑誌. 2000, 6(1), p. 42-49 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/56737 |
| rights | ©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 |
| Note | |

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

# 看護計画開示を試みて
## -看護におけるインフォームドコンセントを考える-

水江尚代　清野恭子　高山美保　加藤澄玲　山田容子

# Considering Informed Consent in Nursing
## -Opening the Nursing Plan to Discussion-

Mizue, H., Seino, K., Takayama, M., Katou, S., Yamada, Y.

## Ⅰ．はじめに

近年医療においてインフォームドコンセントが重要視されており、小笠原ら[1]によると、看護においても看護計画開示時に患者に参画してもらうことにより、患者・看護婦間の信頼関係が深まり、問題点・看護目標が共有でき、ひいては患者の闘病意欲につながったと報告されている。

現在、東11階病棟においては、受け持ち看護婦が患者の目標を設定し、看護計画を立案している。しかし、その看護計画は看護婦の主観的なものになりがちで、患者と共に考えているとは言いがたく、患者の主体性が活かされているかは疑問であった。

看護ケアにおけるインフォームドコンセントとは、看護婦が立案した看護計画に基づいて、患者、家族と話し合うことで、患者自らが考え、選択することができるよう情報を開示することであると考えることから、私達は情報開示の第一歩として、看護婦が作成した看護計画の開示を試みた。看護診断過程において、安部氏[2]の示すインフォームドコンセントの3本柱である「説明」「理解」「同意」が図れたかどうかを問うアンケートを行い、開示がインフォームドコンセントの手段としてなり得るかを評価した。また、開示することで患者の意見が反映され、主体性を活かした看護につながるかについても、アンケート結果より若干の示唆を得たので報告する。

## Ⅱ．対象と方法

1. 対象：①平成10年9月～平成11年2月に、東11階病棟に入院した患者（短期検査入院、意識レベルの低下した患者は除く）70名中、アンケート回収できた59名（アンケート回収率84.3%）。男性36名・女性23名。平均年齢57.1歳（24才～77才）。②東11階病棟看護婦16名。

2. 方法：①研究に先立ち、小笠原らの看護計画開示用紙を参考に、当科独自の看護計画開示用紙（以下、開示用紙とする）、患者説明用紙、医師説明用紙、看護婦用開示マニュアル（後述）を作成した。ここで言う「開示」とは、あらかじめ看護婦が立案したものを患者用の開示用紙に書き変えて提示することを言い、以下「開示」とする。②対象患者へ開示を実施。③看護診断過程における「問題点抽出」「目標設定」「看護計画立案」の各段階において「説明」「理解」「同意」が図られたかどうか、計画されたことの実施・評価が行われたか、開示によりどのような効果が得られたかなどを問うアンケートを作成した。患者退院時に、受け持ち看護婦以外の看護婦からアンケート用紙を手渡し、回収を行った。患者用アンケートは資料1、看護婦用アンケートは資料2に示す。④受持ち看護婦には、各々の患者について同内容のアンケートを平成11年3月に施行。⑤アンケートの結果を比較、検討した。

＜看護婦用開示マニュアル＞

（記録方法）

入院時、受け持ち看護婦が看護計画用紙にプロブレムごとの看護計画を立案し（抜粋例表1）、それをもとに1週間以内に開示用紙を書き直す。当院使用のNANDAの看護診断名は記入せず、‘問題となっていること’や、‘目標’‘ＴＰ’‘ＥＰ’を分かりやすい表現で記入する。作成後は主治医の確認サインや、受持ち看護婦のサイン、そして開始日時を記入する。（実際例は表2）

大阪大学医学部附属病院看護部

<表 1> 看護計画用紙

氏名 K・M 氏

| 月 日 | 解 決 月 日 | プロブレム・看護目標・プラン | | | | | | | SIGN |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9/10 | | #1 不安／肝臓に影があると言われ、急な入院精査が必要なことで仕事にも影響していること<br><目標><br>不安を増大することなく、納得して治療が受けられる | | | | | | | K Ns |
| 開 始 月 日 | 解 決 月 日 | DP | 開 始 月 日 | 解 決 月 日 | TP | 開 始 月 日 | 解 決 月 日 | EP | SIGN |
| 9/10 | | ・不安言動表情の観察<br>・食事睡眠状況の観察<br>・医師よりの説明内容の把握<br>・患者の受けとめ方の把握 | 9/10 | | ・検査前オリエンテーション<br>・訴えやすい雰囲気づくり<br>・必要時医師へ説明を依頼する | 9/10 | | ・分らないことがあれば、遠慮なく聞いてください | |

<表2> 看護計画開示用紙

患者氏名　主治医　担当NS

K.M.氏　J先生　K看護婦

<問題となっていること>

肝臓に異常があると言われ、急な入院精査必要となり、今後の治療、入院期間がはっきりしないこと

| 開始／解決 | 目標 | 目標を達成する為の方法 | 患者の自由記載 |
|---|---|---|---|
| | 不安増大することなく納得して検査、治療をスムーズにうけられる | 不安に思う事、疑問に思う事はなんでも話して下さい<br>疑問は分かる範囲でお答えするか医師よりの説明を依頼します | 家族に対する説明も詳しく受け疑問は解決できました |
| | | 検査前に必ず説明をします<br>分からない事があれば聞いて下さい | 検査の内容も詳しく説明してもらいました<br>看護が丁寧でレベルが高い |
| | | <検査の予定> | |
| | | MRI検査 | 入院していても不安が非常に少なく過ごせる |
| | | 胃カメラ | |
| | | 血管造影 | 皮膚科にも行けて治療して頂いてありがたい |
| | | 肝機能検査 | |
| | | 採血（月／木の予定） | |
| | | 皮膚科 | |
| | | 睡眠状況をお聞きします | |
| | | 眠りにくい時は遠慮なく言ってください | 問題ない |
| | | 検査のない日は出来るだけ外出外泊していただける様、医師と相談していきます<br>希望日等あれば早めに申し出て下さい | この点本当に配慮して頂いて有り難かった<br>（期末決算時期で忙しかった為） |

（開示の時期と方法）

患者入院後1週間以内に、開示用紙を作成する。

患者に開示用紙を渡す際は婦長と共に訪室し、婦長より患者説明用紙で開示の目的を説明し、了解が得られた後に受け持ち看護婦が開示を行う。患者用の開示用紙はクリアファイルに綴じて渡し、患者保管とする。看護婦用は、コピーしたものを看護記録のカーデックスBの後ろに綴じる。看護記録の背表紙に赤いビニールテープで「研」マークをつける。開示した患者については、その日のカンファレンスで報告する。開示用紙にあげた目標の評価は、日々の記録でアセスメントしていきながら、オーディット時にも評価し、必要時修正する。目標が解決した時は線を引いて削除する。

3. 検定：患者グループと看護婦グループの「はい」と回答した者の割合に有意差があるか否かについて、$\chi 2$検定を行った。

## Ⅲ. 結　　果

看護婦が患者に行った開示の反応は、図①の通りであった。ただし今回のデータでは、患者グループと看護婦グループの「はい」と回答した者の割合に有意差は認められなかった。

看護計画における問題点抽出について、患者は「説明(94.9%)」、「理解(96.6%)」、「同意(98.3%)」ができたと答えているのに対し、看護婦は「説明(91.5%)」、「理解(93.2%)」、「同意(93.2%)」であり、患者より看護婦がやや低い値を示していた。

目標設定について、患者は「説明(94.9%)」、「理解(96.6%)」、「同意(93.2%)」が出来たと答えており、看護婦は「説明(100%)」、「理解(93.2%)」、「同意(78.6%)」と、患者に比べて看護婦の同意に対する値は低い結果であった。

看護計画立案について、患者は「説明(93.2%)」、「理解(91.5%)」、「同意(91.5%)」が出来たと答えており、看護婦は「説明(100%)」、「理解(86.4%)」、「同意(91.5%)」と、理解の点で看護婦が患者より低い値となった。

計画の実施について、患者は「看護婦がしてくれた(93.2%)」、「自分も実施した(86.4%)」と答えており、看護婦は「実施できた(88.1%)」「患者は参加できていた(94.9%)」と、両者共に相手が実施したことに比べて自分の実施は低い値となった。

評価が行われたかについて、「患者(67.8%)」、「看護婦(69.5%)」と7割弱の結果となった。

看護婦と話し合う機会が持てたかについて、患者は94.9%「満足している」のに対し、看護婦は「開示することでコミュニケーションが深まった」が71.2%であった。闘病意欲が増したかについて、患者(81.3%)、看護婦(76.3%)が「増した」と答えていた。疾患の理解が深まったかについて、患者は96.6%、看護婦は88.1%が「はい」と答えていた。看護計画開示について患者の93.2%は「よかった」と答えており、看護婦も96.6%が「良い感触を得た」という結果であった。

＜患者に行ったアンケートからの自由回答（抜粋）＞

1. インフォームドコンセントの手段として活用したことについての意見

・初めは模索の状態ではあったが、私の問題点を提示され決心がついた。
・入院中の目的や目標がはっきりし、安心して入院生活が送れた。
・なんでも質問したり話したり出来た。親切で温かく、患者と同じ視線で見て下さることを有難いと思った。
・入院中は病気を治すことが目標であることを再確認した。
・同疾患患者の話が聞けたり、ガーゼ交換の良い方法を助言してもらうなど大変参考になった。
・今後の治療でどうしていきたいという私の希望を聞いてもらうのに良い機会になった。
・計画中のケア（清拭など）をきちんとしてくれた。
・患者本来の目標は病気を治すことにあり、副作用にどう対処していくかということではない。
・不安の軽減は自分で処理していくしかない問題であり、看護婦の介入によって解決していくものではない。
・検査入院の為、あまり看護婦の手を借りるという感じではなかった。

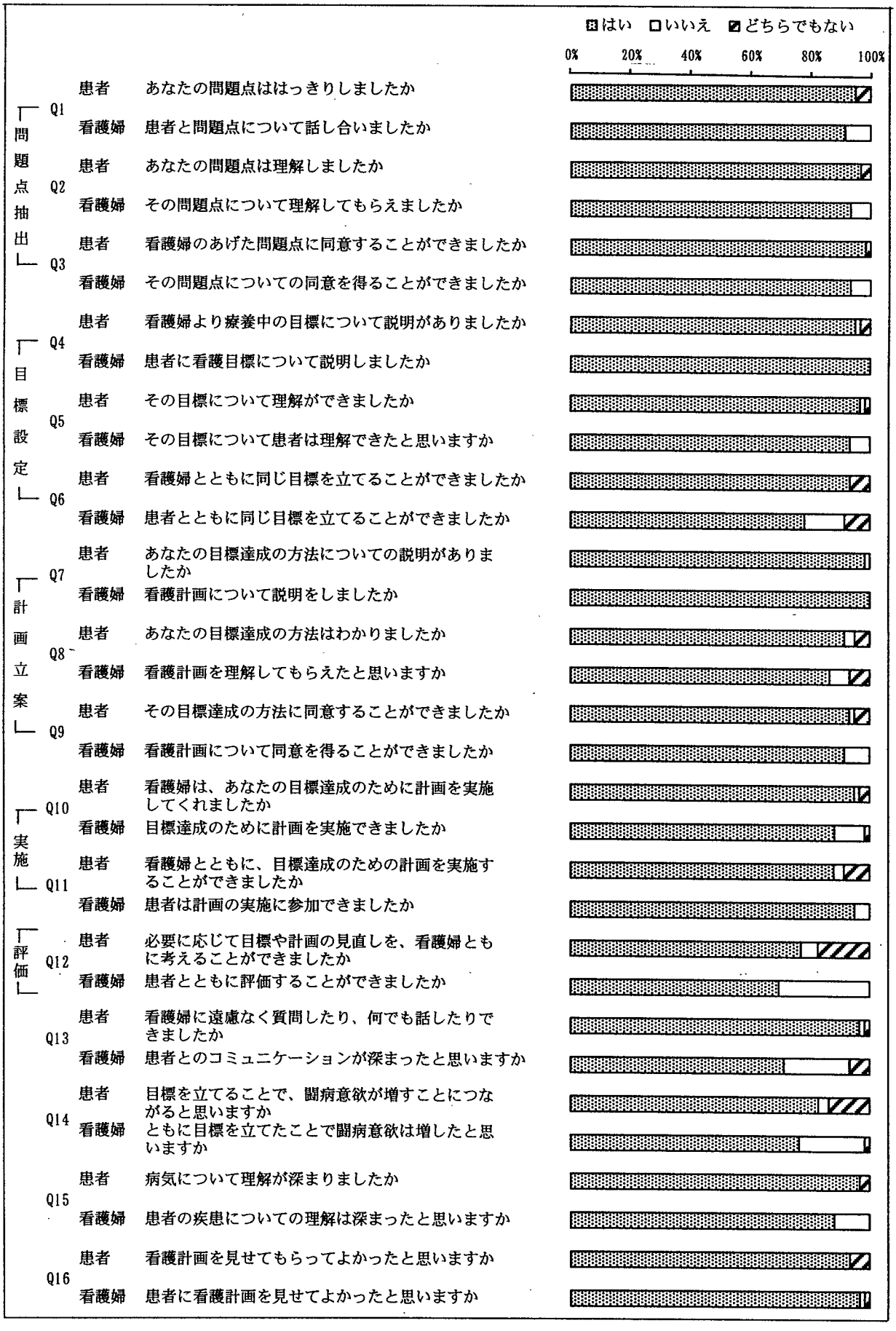
2. 患者の主体性に関する意見

・文章でもらうことで、自分自身のペースで整理しながら確認ができた。
・家庭での日常生活と病院での生活の相違について身をもって体験しました。
・体重の減量とカロリーバランスについて、ご指導下さった様に目標を持って生活していきたいと思います。
・紙面上に注意点が記載してあるため、自分でも守れるように努力できた。
・採血の結果などの見方が分り、それをコピーしていただけて参考になった。
・書面として手元にあることで反復して考え、次なる問題へつなげるのに役立った。

3. 開示についての意見

・症状変化後の目標、問題点に追加や説明不足を感じた。
・病気が改善されない場合、一時的に落胆する思いになることがある。
・看護計画の企画と実際の患者サイドへの時間は、本当にどのぐらいあるのか？　廊下を走り回っておられるのを目にすると、その余裕は現実上無理とお見受けします。

<図1> 開示・実施に対する患者・看護婦の反応



・評価できなかった点はなぜかをはっきりさせ、次につなげてほしい。

＜看護婦に行ったアンケートからの自由回答（抜粋）＞

1. インフォームドコンセントの手段として活用したことについての意見

・看護婦の関わりが初めから明らかになることで、コミュニケーションも取り易すかった。
・看護婦から患者へ一方通行になることなく、患者の意思確認をとりながらケアできた。
・患者は事前に自分が受ける処置を予測したり、治療に自分も参加しているような思いが持てたと思う。
・看護婦さんは何してるの？と言われなくなった。
・開示用紙があることで、看護婦に質問しやすくなったと思う。

2. 患者の主体性に関する意見

・開示用紙を記入してから、「一応、私として気付いた点を挙げてみましたが、…」というかたちをとったので、患者と話し合うことは少なかった。
・患者と共に立てたというより、看護婦が立てた目標に同意したという印象である。
・開示の時、患者からの積極的な意見がなかったので、それでよいと思い次に進んだ。
・患者自身が治してもらおうという受け身なところがあり、本当に理解してもらえたかは疑問である。
・開示後、ノート・メモ・データーに注目したり自分の数値の変化に興味を持たれた。それをもとに話し合う場もふえた。
・自主的に用紙を見直されて再認識の手段となっていると感じた。

3. 開示についての意見

・開示の意味をどこまで理解しているか不明で、手応えがなかった。
・忙しくて評価できなかった。また、評価したことを紙面に残すことができなかった。
・コミュニケーションについては、看護婦側からすれば書面にて説明するか、口頭で説明するかの違いで、以前とあまり変わらないように思う。
・糖尿病患者には具体的な計画も立てられ、実際に活用できた。チェックすることで患者も達成感があった様子。
・開示用紙といつもの看護計画用紙と２回書かなければいけなくなり時間がかかった。（開示用紙作成には、平均約３０から６０分間を要した）
・開示を行うことはすばらしいことだと思うが、業務上の負担を考えるとこのままの方法では継続することは難しいと思う。

## Ⅳ．考　察

1. 開示はインフォームドコンセントの手段としてなり得たかについて

看護におけるインフォームドコンセントについて、阿部[2]は、『単に説明や情報提供を行えば良いということではなく、患者の状況に応じ「説明」「理解」「同意」がなされるようにそれぞれに支援していかねばならない』と述べている。問題点抽出、目標設定、看護計画立案において、今回の調査で9割以上の患者が、説明、理解、同意ができたと評価した。患者の自由回答より「入院中の目的や目標がはっきりし、安心して入院生活が送れた」「今後どうして行きたいという私の希望を聞いてもらうのに良い機会になった」などの意見もあり、開示は看護上のインフォームドコンセントの手段となり得たといえるのではないだろうか。

計画の実施について看護婦の結果は低く出たが、患者自身は計画に即したケアが受けられたと捉えている。それは看護婦の自己評価水準が高く、患者との満足度の格差によるものと考える。また、評価に対する結果は低く、なかなかタイムリーでこまやかな自己オーディットが進まなかったことと、オーディットできていても患者の開示用紙までは反映できなかった現状が浮き彫りになった。今後、患者の状況変化に応じた評価や開示用紙への反映に対する努力が必要であると思われる。

2. 患者の主体性を活かした看護につながるかについて

患者の主体性については、患者の自由回答より「書面として手元にあることで反復して考え、次なる問題へつなげるのに役立った」「ご指導して下さった様に目標をもって生活していきたいと思います」など、前向きな意見が聞かれた。一方、看護婦の自由回答からは「開示時患者の積極的な意見はあまり聞かれず、看護婦はそれを同意できたものと捉え、そのまま計画・評価へ進んだ」「患者と共にというより、看護婦が立てた目標に同意したという印象である」など、患者の意識が受身でお任せ医療的であったためか、看護婦が患者の主体性を捉えきれず、今回の開示では患者の主体性を充分活かすことができなかったように思われる。今回の開示方法が、あらかじめ看護婦が立案した計画を示すというものであったため、患者はまず、そのまま同意することが精一杯の反応であった可能性がある。今後、患者の意見や意思を反映するには、患者とともに問題点を考え、目標を設定し、共有した後に、紙面化するほうが主体性を活かすことに対して有効であると思われる。

3．開示の効果

開示の効果として、コミュニケーションについて開示前後を判断することは出来ないが、患者のアンケートの結果で高値を得たということは、患者との信頼関係を築

くことが出来たということに対する評価であり、看護婦にとっても患者とじっくり話し合う機会をもつことにつながったと考える。また、開示により疾患に対する理解が深まり、闘病意欲が増したという回答が8割以上あったことより、患者の反応はおおむね良好であったと考える。私たちにとって患者からの 直接の言葉を聞くことは大きな励みとなった。看護婦も開示したことについての満足度は高く、情報公開の時代における患者の期待も含め、開示への第一歩としてはよいスタートをきることができたように思われる。

4. 今回の開示について感じたことや問題点

看護婦の自由回答でもみられたが、「患者は開示の意味をどこまで理解しているか不明で、手応えがなかった」「患者自身が治してもらおうという受け身的なところがあり、本当に理解してもらえたかは疑問である」など、患者にとって看護婦がどう関わっているかについての認識の薄さを感じる意見があった。開示を受ける患者にとっては、治療過程は医師の仕事として考え、自分はそのレールに乗っているだけというケースもあり、看護婦は医師の診療補助と療養生活援助を行う存在として認識し、看護婦が問題点を挙げてケア計画を立てていることなどを知らない場合があるのではないかと思われた。中木[3]は、「看護上のインフォームドコンセントを成立させる条件として、看護婦が知的職業であると言うことをアピールする必要がある」と述べており、開示事例を積み重ねていく中で、患者の認識を変えて行く必要があるだろう。

看護業務上の問題点としては、今回の開示方法が看護計画用紙を開示用紙に書き直したため、用紙作成にかなりの時間がかかった。開示時の説明時間も考えると、スタッフに負担があっとことは事実である。今後開示を行うにあたっては、患者と共に問題点、目標を設定することや、開示方法の書式を再検討することなどが必要と思われる。

## V. おわりに

現在、患者自身のセルフケア能力を高めることを必要とする患者に対して、積極的に開示を行っている。看護上の問題点や目標を患者と共に話し合い、確認後、看護婦が使っている看護計画用紙をコピーして患者に渡している。コピーした用紙の内容には専門用語も多いが、患者が知っておいた方が良い場合もあり、受け入れは良好であった。

患者と共に問題点や目標を話し合うことは、患者と看護婦の認識のずれを少なくし、患者の主体性を活かすことにつながりつつあると実感している。

今後さらに、看護上のインフォームドコンセントの理解を深め、患者の主体性を活かした看護が展開していけるように、開示の経験を積み重ねていきたい。

## VI. 引用文献・参考文献

引用文献

1)小笠原美香(1997). 患者参画を促す看護計画開示の有効性の検討―計画共有によるインフォームドコンセントを目指して―, 第28回日本看護学会集録(管理管理), 219～221.

2)阿部淳子(1998). インフォームドコンセント, 臨床看護, 24 (8), p1237.

3)中木高夫(1998). POSをナースに(第2版), 医学書院, 201～208.

参考文献

1)星野一正(1997). インフォームド コンセント―日本になじむ六つの提言―, 丸善ライブラリ -.

2)川名敦子(1998). 看護計画を患者さんとともに立てて、患者さんとともに看護を展開することについて, 看護技術, 44(5).

3)星和美他(1998). 看護とインフォームドコンセントに関する文献検討―患者の自己決定を支えるための関わりを求めて, 看護技術, 44(5), 81～85.

〈資料 1〉　患者用アンケート

退院おめでとうございます。

今後の看護に活かしていきたいと思いますので、よろしければアンケートにご協力お願いします。
適当なものに○をつけて下さい。

1. あなたの問題点ははっきりしましたか。
   はい　いいえ　どちらでもない

2. あなたの問題点は理解できましたか。
   はい　いいえ　どちらでもない

3. 看護婦のあげた問題点に同意することができましたか。
   はい　いいえ　どちらでもない

4. 看護婦より療養中の目標について説明がありましたか。
   はい　いいえ　どちらでもない

5. その目標について理解ができましたか。
   はい　いいえ　どちらでもない

6. 看護婦とともに同じ目標を立てることができましたか。
   はい　いいえ　どちらでもない

7. あなたの目標達成の方法についての説明がありましたか。
   はい　いいえ　どちらでもない

8. あなたの目標達成の方法は分かりましたか。
   はい　いいえ　どちらでもない

9. その目標達成の方法に同意することができましたか。
   はい　いいえ　どちらでもない

10. 看護婦は、あなたの目標達成のための計画を実施してくれましたか。
    はい　いいえ　どちらでもない

11. 看護婦と共に、目標達成のための計画を実施することができましたか。
    はい　いいえ　どちらでもない

12. 必要に応じて目標や計画の見直しを、看護婦と共に考えることができましたか。
    はい　いいえ　どちらでもない

13. 看護婦に遠慮なく質問したり、何でも話したりできましたか。
    はい　いいえ　どちらでもない

14. 目標を立てることで闘病意欲が増すことにつながると思いますか。
    はい　いいえ　どちらでもない

15. 病気について理解が深まりましたか。
    はい　いいえ　どちらでもない

16. 看護計画を見せてもらって良かったと思いますか。
    はい　いいえ　どちらでもない

17. その他、お気付きの点をご記入下さい。

御協力ありがとうございました。

＜資料 2＞　看護婦用アンケート

（　　Ns.）開示患者者名（開示した順番です）
お忙しい中、申し訳ございませんが、皆様、御協力よろしくお願いします。
患者アンケートと対比させる予定ですので、①～⑭までは患者の番号で記入します。

1.患者と、問題点について話し合いましたか？
　はい（　）　いいえ（　）⇒〔　　〕
2.その問題点について、患者に理解してもらいましたか？
　はい（　）　いいえ（　）⇒〔　　〕
3.その問題点についての同意を得ることはできましたか？
　はい（　）　いいえ（　）⇒〔　　〕
4.患者に看護目標について説明しましたか？
　はい（　）　いいえ（　）⇒〔　　〕
5.その目標について患者は理解できたと思いますか？
　はい（　）　いいえ（　）⇒〔　　〕
6.患者とともに同じ目標を立てることができましたか？
　はい（　）　いいえ（　）⇒〔　　〕
7.看護計画について説明をしましたか？
　はい（　）　いいえ（　）⇒〔　　〕
8.看護計画を理解してもらえたと思いますか？
　はい（　）　いいえ（　）⇒〔　　〕
9.看護計画について同意を得ることができましたか？
　はい（　）　いいえ（　）⇒〔　　〕
10.目標達成のために計画を実施できましたか？
　はい（　）　いいえ（　）⇒〔　　〕
11.患者は計画の実施に参加できましたか？
　はい（　）　いいえ（　）⇒〔　　〕
12.患者とともに評価することができましたか？
　はい（　）　いいえ（　）⇒〔　　〕
13.患者とのコミュニケーションが深まったと思いますか？
　はい（　）　いいえ（　）⇒〔　　〕
14.患者・看護婦共に目標を立てたことで、闘病意欲は増したと思いますか？
　はい（　）　いいえ（　）⇒〔　　〕
15.患者の疾患についての理解は深まったと思いますか？
　はい（　）　いいえ（　）⇒〔　　〕
16.患者に看護計画を見せてよかったと思いますか？
　はい（　）　いいえ（　）⇒〔　　〕
17.今までに比べて、看護ケアをしやすくなったと思いますか？
　はい　いいえ　どちらでもない⇒〔　　〕
18.プライマリーNs としての責任感は強まりましたか？
　はい　いいえ　どちらでもない⇒〔　　〕
19.プライマリーNs 以外の受け持ち患者のケアは行いやすくなりましたか？
　はい　いいえ　どちらでもない）⇒〔　　〕
20.今回は、意識レベル低下の患者と、検査入院以外は、全員導入することを前提にはじめましたが、計画開示導入する患者にしぼるべきだと思いますか？
　はい　いいえ　どちらでもない⇒〔　　〕
21.開示用紙作成にどのくらい時間がかかりましたか？　平均（約　時間）
22. 開示用紙の説明にどのくらい時間を費やされましたか？　平均（約　分）
23.開示後の患者に何か行動変容がありましたか？（例：ノート・グラフ作成、質問増加等）
　〔　　〕
24. 開示を行うことで、インフォームドコンセントはより深くなったと思いますか？
　はい　いいえ　どちらでもない〔　　〕

25. 今後も看護計画開示は続けていきたいと思いますか？
　はい　いいえ　どちらでもない〔　　〕
26. 継続するためには、何が問題だと思われますか？
　問 題 点〔　　〕
　↓
　改 良 点〔　　〕
27. その他、意見がございましたら何でもお願いします。
　〔　　〕
御協力ありがとうございました。今後も、御指導の程、よろしくお願い申し上げます。
～看護研究メンバー一同～